



年初からダッシュ！

展望切り開く 2010 年代の幕開け



日高市平和委が署名活動

1 月 10 日午後、日高市平和委員会は今年初の理事会を開き、21 世紀が新しい 10 年代に入った 2010 年を平和運動で前進し展望を切り開く重要な年と位置づけ、諸課題に取組んでいくことを確認しました。

会議後早速、昨年から力を入れている 5 月の NPT 再検討会議にむけた「核兵器のない世界を」の街頭署名を行いました。

署名活動には理事全員が参加、風が冷たくなったファミリーまるひろ前で 2 時過ぎから約 1 時間、買い物客から「ごくろうさま」の声がかかりました。この日の街頭署名は 17 筆でしたが、平和委員会会員一人当たり 20 筆を目標にした各人による独自署名が 2 人の会員から寄せられました。

“基地も軍事同盟もいらない” - 日本平和大会で提起された 4 つの行動

理事会では年頭に当たり平和運動をめぐる内外情勢について話し合いました。昨年は内外の運動が世論を動かし、核問題、環境問題、経済問題などで大きな前進とともに、また逆流も見られる年でした。議論では、NPT 再検討会議へ向けての活動、普天間基地の撤去をめぐる日米関係を安保改定 50 年の節目の年にどう考え行動するか、民主党内の解釈改憲をめざす動き、「韓国併合 100 年」をどう考えるかなどが問題になりました。

そのなかで、昨年末の日本平和大会で提起された 4 つの行動(別項-「平和新聞」新春特別号参照)を再確認し、日高市平和委員会として可能な取り組みを具体化していくことになりました。

「『現行安保 50 年』にあたる 2010 年の戦いによっては、米軍基地の再編・強化計画に大きな打撃を与え、日米安保体制 = 日米同盟の見直しの展望を開く可能性も開けている」(大会まとめと行動提起より)

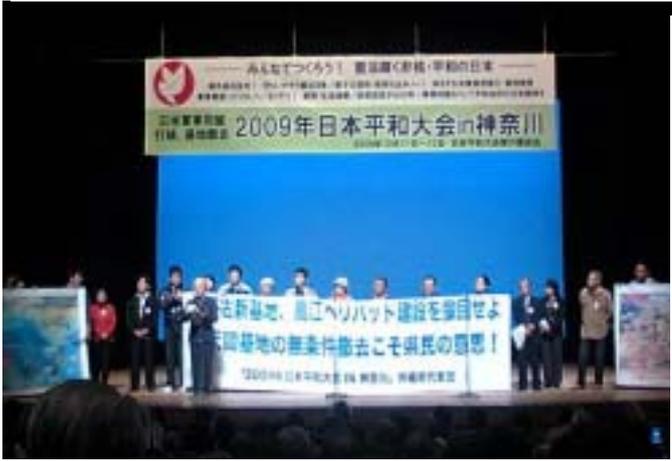
四つの行動

以下は昨年日本平和大会で日本平和委員会千坂事務局長が基調報告で提起した 4 つの行動です。

- 米軍基地縮小・撤去、沖縄への新基地ノー！核兵器のない世界実現の先頭に立つ非核の日本を目指す行動
- 自衛隊の海外派兵を中止し、憲法にもとづく平和外交をめざす行動
- 日米安保条約改定 50 年 日米軍事同盟を廃棄し、平和友好の日米関係をめざす行動



2009年日本平和大会 in 神奈川に参加して



今年、NPT（核不拡散条約）再検討会議開催など、大きな節目の年になります。その年を目前に控えた昨年十二月に開かれた日本平和大会（神奈川県）に参加した渡辺会長から報告が寄せられました。

開会総会

私は十一日の開会総会、十二日の分科会に参加しました。開会総会ではアメリカ、ドイツ、韓国、フィリピンからの代表が壇上にならび、それぞれ発言をされました。

アメリカ代表ジョンさんは「（平和運動を進める）力の源泉は、人と人の関係」ですと発言しました。韓国代表は北朝鮮の核開発をやめさせるための運動につい

て、フィリピンの代表は一九九〇年に米軍基地を撤去させた運動について、ドイツ代表はNATOの戦略変化についてそれぞれ発言しました。

写真は沖縄の名護市、東村高江、宜野湾市などからの代表が壇上に登場した様子を撮ったものです。沖縄県民は十一月八日に県民大会を開き、普天間基地の撤去、県内移設反対の意思を明確に示しました。県民大会の様子は地元紙「沖縄タイムス」「琉球新報」が号外を出すほどの盛り上がりを見せました。

沖縄の人達はこの大会に集う全国の仲間との連帯を固めるために参加しました。壇上で全国の仲間が寄せ書き、募金、署名を沖縄の代表に手渡しました。

分科会

翌十二日、私は「加害・被害を伝える」分科会に参加しました。

そこでは「加害・被害の歴史」が議論されました。議論の中心は日本の中国侵略、日韓併合、原爆投下、東京大空襲でした。最初に助言者である高校の先生が日韓・日中の歴史のかかりについて解説をされました。二〇一〇年は日韓併合一〇〇周年の節目です。福澤諭吉（一万円札の表に印刷されている人）は「脱亜入欧」を唱え、「アジア人種は劣っている、欧米に追いつけ追い越せ」と主張しました。このころからアジア人種に対する蔑視が始まった、との助言

者のお話は目からうろこでした。現在、NHKでは司馬遼太郎の「坂の上の雲」を放送しています。司馬は日清・日露の戦争を肯定し、日本人が世界に冠たる実力をつけたと美化している人物だとの解説にも納得がきました。

日韓併合一〇〇周年関連事業が政府主導で実施される見通し（小沢・李会談）であることも話題になりました。

若者にどう伝えるか

私は日高市平和委員会が取り組んだ「戦災資料館」のツアーの経験を報告しました。その中で二名の高校生が参加したことを話しました。私自身、小学生のころ東京大空襲後の焼け跡に住んだ経験があります。近くの児童公園で砂場を掘り返したらたくさんのお骨が出てきたという記憶があります。また、朝鮮人部落があり差別用語がごく当たり前に使われていました。なぜそのようなことがあったのか長年の疑問でしたが、「資料館の展示資料を読んで理由が分かった」と話しました。報告の最後に「学校では平和教育はどうなっているのか」と質問しました。

私の発言を司会者がとらえ「若者へどう加害・被害の歴史を伝えるか」という方向に議論を誘導しました。助言者の先生は、現在の学校現場での平和教育は教科書を中心とした講義と、広島・長崎の訪問などの実践教育がセットになって教師たちが進めている、と話されました。



原子力空母出て行け！2009.9.13.横須賀集会

しかし、組合に加入している教師は数人しかいないことを併せて紹介したときは、会場から「ホー」というため息が漏れました。

分科会参加者の一人は「憲法九条改悪を目的に『加害・被害の歴史』を捻じ曲げようとする勢力は、田母神論文をもてはやし、かつ彼が自衛隊のトップとして青年隊員に君臨したことを許してきた。彼を支持する青年隊員たちがアパグループの懸賞論文にも名を連ねており、それらの著作が全国のアパホテルに置かれている」と告発しました。

分科会の最後に主催者の発言がありました。「この分科会では結論を出すことはしません。それぞれが今日の内容を持ち帰ってください」と締めくくって会議は終わりました。